

介護等体験による学生の意識変化について

——教職志望学生が介護等体験から学ぶもの——

田 実 潔

目 次

- I. はじめに
- II. 目 的
- III. 方 法
- IV. 結 果
- V. 考 察
- VI. 結 語

I. はじめに

本学では、短期大学部を除く経済学部と文学部および社会福祉学部のそれぞれの学科8学科において、中学英語や中学社会等の中学校教員免許取得の認定を受けている。小学校と中学校の義務教育教員免許取得にあたっては、1998年の「小学校および中学校の教諭の普通免許状に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(以下「介護等体験特例法」)にもとづき、教員免許取得希望者には介護等体験が義務づけられている。介護等体験特例法施行後8年(本学での介護等体験実施後5年)を経過した今、実施上の様々な問題点が指摘されるようになった(富田 2002, 小寺2003)。制度上の問題や法案成立過程における正当性の問題等の指摘も多いが、小寺(2003)は介護等体験の有効性を認めつつも「教員免許取得における介護等体験の必然性」と「体験内容の評価」等について問題提起をしている。

本学でも事後指導の一環として介護等体験を終えた学生に、感想レポートの提出を義務づけているが、ほとんどの感想文には「新しい発見があった」とか「意義のある体験」、「自分の価値観や考えを改めることになった」、「高齢者の方への接し方が変わった」、「養護学校で見た授業には教育本来の視点があった」、「教師になりたい気持ちが強くなった」等積極的に介護等体験を評価する記述が多く見られる(藤本2003, 前田2004についても同様)。このように、社会福祉施設5日間、養護学校2日間の介護等体験で学生達が貴重な体験をしてきていることは事実であり、介護等体験の成果であるとも言えるが、小寺の指摘する教職課程における「介護等体験の必然性」や「体験内容の評価」については、感想レベルでの雑駁な結論しか見いだせていない。また、介護という観点から、社会福祉施設と養護学校での体験が設定されているが、両所の介護等体験における質的差異についても明確ではない。ある意味で社会的弱者である高齢者や障害のある人たちと接する体験、という括りに包含してしまっており、そこには教育や教員養成といった教職課程との関連性も曖昧なものとなっている。

そもそも、この「介護等体験特例法」は議員立法であるが、その制定趣旨は代表議員の概要説明によれば以下の通りである。「将来教育現場で活躍される方々が、高齢者や障害者に対する介護等の体験をみずからの原体験

キーワード：介護等体験・意識変化・教職・アンケート調査

として持ち、またそうした経験を現場に生かしていくことによって、人の心の痛みのわかる人づくり、各人の価値観の相違を認められる心を持った人づくりの実現に資することを期待しております」(1997年5月28日第140回通常国会衆議院文教委員会)。このように、介護等体験を教員の資質向上と密接に関連づけて位置づけた場合、やはり介護等体験で学生が得てきたものが、真に教員資質の向上に寄与するものであるのかどうか問われなければならない、大学教職部門としても喫緊の課題であると考えている。

II. 目 的

「介護等体験特例法」施行以来、本学では3年次生を対象に2000年度から介護等体験を実施してきた。が、当初の理念からこの介護等体験が、実際に学生達にどのように受けとめられ、また何を新たに学び、みずからの教員としての資質向上に意図的に位置づけてきたのか、といった介護等体験の本質論については検証されてこなかったのが実情である。そこで、本研究では介護等体験を行う学生に対して、学生が学んだものを明らかにし、教員としての資質向上という介護等体験の理想と現実について考察することを目的として、事前事後指導の一環であるアンケート調査を分析検討することとした。

III. 方 法

1. 介護等体験の事前事後指導

年度当初に3年生を対象に介護等体験希望者への事前指導を行い、諸注意や社会施設、養護学校についての概略説明を行っている。この事前指導の際に、事前アンケートと事後アンケート用紙を配付し、事前アンケートはその場で回収、事後アンケートは社会施設での体験と養護学校での体験が終わった1週間

以内に提出させた。本学では、事前事後指導の一環として、アンケート調査以外に感想レポートも退出させているが、すべての提出物と事前ガイダンスの出席状況をチェックしている。4年生時の教員免許申請時には、介護等体験の申請書とともに本学独自の事前事後指導チェック表を添えて提出することを義務づけており、原則としてチェック表の未提出者は教員免許の一括申請を受理しないことにしている。

2. 対象

中学校免許の取得を希望し、2002年度から2005年度までの4年間に介護等体験を行った134人を対象に、事前と事後に度調査用紙によるアンケート調査を行った(内訳 中学英語77名、中学社会57名)。回収率は100%である。

3. 手続き

アンケートの質問項目は、1)介護等体験全般に関する項目4項目と、2)社会施設に関する項目8項目、3)養護学校に関する項目19項目の合計31項目である(資料)。それぞれの質問項目は、2001年度実施の介護等体験事後感想文より、介護等体験に対する印象記述を抽出し、不適当な表現を除いて調査項目とした。それぞれの項目については、とてもいい-いい-え-どちらでもない-はい-とてもはい、の5件法で、それぞれの選択肢に順に1~5点を付加し、データとした。

IV. 結 果

1)介護等体験全般に関する項目と、2)社会施設に関する項目については、各項目毎に対応のあるt検定を、3)養護学校に関する項目については因子分析による因子抽出の後、各因子毎に対応のあるt検定を行い統計処理を施した。1)介護等体験全般に関する集計結果とt検定の結果をそれぞれTable 1-1~2に、2)社会施設に関する結果をTable 2-1~2に

示した。3) 養護学校に関する項目の因子分析結果をTable3に示した。また分析に用いたソフトはWindows 版SPSSである。

Table 1-1 介護等体験全般に関する集計結果

		平均値	N	標準偏差
項目1	教員免許取得に介護等体験は必要と思いますか(事前)	3.894737	77	0.915052
	教員免許取得に介護等体験は必要と思いますか(事後)	3.924812	77	1.077483
項目2	介護等体験は貴重な体験になりますか(事前)	4.571429	77	0.666125
	介護等体験は貴重な体験になりますか(事後)	4.541353	77	1.07669
項目3	介護等体験は楽しみですか(事前)	3.431818	76	0.958634
	介護等体験は楽しみですか(事後)	4.030303	76	1.025919
項目4	介護等体験に行きたくないですか(事前)	2.443609	77	0.829508
	介護等体験に行きたくないですか(事後)	2.451128	77	1.047842

Table 1-2 介護等体験全般に関する t 検定の結果

	t 値	自由度	有意確率
項目1 教員免許取得にあたり介護等体験は必要と思いますか(事前と事後)	-0.250096232	76	0.802901746
項目2 介護等体験は貴重な体験になりますか(事前と事後)	0.271215955	76	0.78664862
項目3 介護等体験は楽しみですか(事前と事後)***	-5.2152541	75	0.0000
項目4 介護等体験に行きたくないですか(事前と事後)	-0.06992318	76	0.944380623

*** p<.001

Table 2-1 施設体験に関する集計結果

	項目	平均値	N	標準偏差
項目1	施設に入っている人たちは可哀相だと思いますか(事前)	2.52	132	0.73
	施設に入っている人たちは可哀相だと思いますか(事後)	2.43	132	1.13
項目2	施設的环境は悪いと思いますか(事前)	2.67	133	0.79
	施設的环境は悪いと思いますか(事後)	2.00	133	1.15
項目3	施設のお年寄りは孤独であると思いますか(事前)	2.83	122	0.87
	施設のお年寄りは孤独であると思いますか(事後)	2.73	122	1.10
項目4	施設の子どもは身寄りが少ない場合が多いと思いますか(事前)	2.63	71	0.78
	施設の子どもは身寄りが少ない場合が多いと思いますか(事後)	2.55	71	0.75
項目5	施設の障害者たちにはサポートが必要だと思いますか(事前)	4.02	87	0.61
	施設の障害者たちにはサポートが必要だと思いますか(事後)	3.79	87	0.79
項目6	施設実習の経験は教師の仕事に役立つと思いますか(事前)	4.17	132	0.79
	施設実習の経験は教師の仕事に役立つと思いますか(事後)	3.96	132	1.08
項目7	教職希望者は必ず施設実習に行くべきである(事前)	3.62	133	1.00
	教職希望者は必ず施設実習に行くべきである(事後)	3.59	133	1.19
項目8	施設での実習(5日間)は長いと思いますか(事前)	2.79	133	0.89
	施設での実習(5日間)は長いと思いますか(事後)	2.79	133	1.17

Table 2-2 施設体験に関する t 検定結果

	t 値	自由度	有意確率
項目1 施設に入っている人たちは可哀相だと思いますか(事前-事後)	0.70	131	0.49
項目2 施設的环境は悪いと思いますか(事前-事後)***	5.80	132	0.00
項目3 施設のお年寄りは孤独であると思いますか(事前-事後)	0.79	121	0.43
項目4 施設の子どもは身寄りが少ない場合が多いと思いますか(事前-事後)	0.67	70	0.51
項目5 施設の障害者たちにはサポートが必要だと思いますか(事前-事後)***	2.20	86	0.03
項目6 施設実習の経験は教師の仕事に役立つと思いますか(事前-事後)	1.79	131	0.08
項目7 教職希望者は必ず施設実習に行くべきである(事前-事後)	0.24	132	0.81
項目8 施設での実習(5日間)は長いと思いますか(事前-事後)	0.00	132	1.00

*** p<.001 **p<.005

1. 介護等体験全般について

table 1-1には調査項目の集計結果を、table 1-2には集計結果に基づく事前アンケート調査と事後アンケート調査間の対応のあるt検定の結果を示した。全4項目のうち、項目3の『介護等体験は楽しみですか』についてのみ有意差が見られ (p<.001), 事前調査よりも事後調査において高得点となっている。

項目1『教員免許取得にあたり介護等体験は必要と思いますか』と項目2『介護等体験は貴重な体験になりますか』、項目3『介護等体験には行きたくないですか』については、介護等体験の事前と事後で有意な意識の変化は見られなかった。

2. 社会施設全般について

1. と同様、集計結果に基づき事前と事後調査について対応のある t 検定を行った結果をtable2-2に示した。項目2『施設的环境は悪いと思っていますか』と項目5『施設の障害者達にはサポートが必要ですか』について有意差が見られ (各々p<.001, p<.005), いずれも事後の調査で低い得点となっている。項目1『施設に入っている人たちは可哀相だと思いますか』や項目3『施設のお年寄りは孤独であると思いますか』、項目4『施設の子どもは身寄りが少ない場合が多いと思いますか』、項目6『施設体験の経験は教師の仕事に役立つと思いますか』、項目7『教職希望者は必ず施設体験に行くべきである』ならびに項目8『施設での体験(5日間)は長いと思いますか』のそれぞれについては、介護等体験の事前と事後における有意な差はみられなかった。

3. 養護学校体験の因子分析結果

養護学校における介護等体験の事前と事後調査の結果を、プロマックス回転による主因子法による因子分析を行った (Table3-1)。その結果から、3因子が抽出され、これらの因子を第1因子「意義認識因子」、第2因子「学習効果因子」、第3因子を「教職イメージ因子」とそれぞれ名付けた。

Table 1-1 介護等体験全般に関する集計結果

	項 目	因 子			共通性
		1	2	3	
第1因子	養護学校体験の2日間は短かいと思いますか	0.83	-0.14	-0.05	0.62
	養護学校体験はもっと長い日数が望ましい	0.82	-0.10	-0.08	0.65
	養護学校の2日間は楽しく過ごせそうですか	0.82	0.11	-0.04	0.68
	養護学校は暗いイメージがありますか	-0.70	0.05	0.11	0.46
	養護学校免許を取得する予定ですか	0.67	0.02	0.32	0.61
	できれば養護学校には行きたくないですか	0.61	-0.03	0.13	0.47
	施設の5日間で養護学校の2日間を入れ替えるべきだ	0.60	-0.02	0.05	0.46
	養護学校の生徒は普通校に比べて生き生きとしている	0.56	0.13	-0.08	0.37
第2因子	教職希望者は必ず養護学校を体験すべきである	0.52	0.23	-0.09	0.45
	体験で障害児の教育について学べると思いませんか	0.05	0.81	-0.11	0.60
	体験で障害児の発達について学べると思いませんか	-0.11	0.80	0.13	0.53
	体験で障害児の心理について学べると思いませんか	-0.01	0.79	0.08	0.56
第3因子	体験で障害児の指導法について学べると思いませんか	0.02	0.72	-0.09	0.50
	養護学校の教師は普通校に比べて難しそうだ	0.19	0.02	-0.59	0.22
	養護学校の教師は普通校に比べて楽そうだ	0.20	0.04	0.57	0.27

プロマックス回転による主因子法による

抽出された3因子について、養護学校体験の事前と事後でどのような意識変化がみられたかをみるために、それぞれの因子得点の結果と対応のあるt検定で分析比較した結果をtable 3-2, 3に示した。第1因子の「意義認識因子」と第3因子の「教職イメージ因子」では0.001%の危険率水準で、第2因子の「学習効果因子」では0.005%でそれぞれ有意差が認められた。いずれも事後の意識で高い得点となっており、積極的な良い意識変化がみられたことを示している。

Table 3-2 養護学校体験に関する各因子得点の結果

	平均値	N	標準偏差
第1因子得点(事前)	-0.49	132	0.51
第1因子得点(事後)	0.49	132	1.05
第2因子得点(事前)	-0.13	132	0.97
第2因子得点(事後)	0.12	132	0.88
第3因子得点(事前)	-0.40	132	0.58
第3因子得点(事後)	0.40	132	0.76

Table 3-3 各因子の事前事後 t 検定結果

	t 値	自由度	有意確率
第1因子(事前-事後) ***	-10.13	131	0.000
第2因子(事前-事後) **	-2.22	131	0.028
第3因子(事前-事後) ***	-10.04	131	0.000

*** p<.001 **p<.005

V. 考 察

1. 介護等体験全般について

Table 1-2より、項目1と2に示されている介護等体験の意義理解については、全体として評定値も高く、事前と事後の有意差も見られないことから、介護等体験の意義や必要性は充分認識している様に思われる。同様に、項目4で示されている介護等体験への意欲についても、評定値が高くなく(つまり意欲は高い)、事前と事後の有意差も見られないことから、意欲も持っており、介護等体験を肯定的に捉えているように思われる。その結果、項目1と2、4にみられる介護等体験への肯定的な理解は、結果として項目3の期待度に反映されており、楽しかった、という評定が事後において事前の評定よりも有意に高くなっているのではないかと、思われる。

また、この介護等体験全般についての分析について、本学で取得できる英語と社会の2教科間で教科による差異が見られるか同科を見るため、教科別の分析を行い、その結果をTable 4-1, 2に示した。

Table 4-1 英語履修者の介護等体験全般に関する t 検定結果

	t 値	自由度	有意確率 (両側)
項目 1 教員免許取得にあたり介護等体験は必要だと思いますか (事前と事後)	0.000	76	1.000
項目 2 介護等体験は貴重な体験になると感じますか (事前と事後)	-0.251	76	0.802
項目 3 介護等体験は楽しみですか (事前と事後) **	-4.124	75	0.000
項目 4 介護等体験に行きたくないですか (事前と事後)	0.385	76	0.701

*** p<.001

Table 4-2 社会履修者の介護等体験全般に関する t 検定結果

	t 値	自由度	有意確率 (両側)
項目 1 教員免許取得にあたり介護等体験は必要だと思いますか (事前と事後)	0.420	56	0.679
項目 2 介護等体験は貴重な体験になると感じますか (事前と事後)	1.208	56	0.241
項目 3 介護等体験は楽しみですか (事前と事後)	-1.504	56	0.148
項目 4 介護等体験に行きたくないですか (事前と事後)	-2.225	56	0.030

** p<.005

Table 4-1, 2 から英語と社会の教科別の傾向をみてみると、英語履修者では全体傾向と同様に項目 3 において有意差がみられたが、社会履修者では事後評価において評価値が低くなる結果は変わらないものの、検定上有意な差ではなかった。しかし、社会履修者は項目 4 において有意差がみられ、事後の評価値が上がる、つまり介護等体験に対して事後は行きたくない気持ちが強くなっていることが示された。結果として、英語免許取得者は、最事前より事後の方が介護等体験を楽しみと感ずるようになるが、介護等体験に行きたいという気持ちも強くなり、全体的に介護等体験を積極的に位置づけ、その意義も十分認めているように思われる。一方、社会免許取得者は、介護等体験を楽しみとする気持ちの変化は見られず、体験終了後には介護等体験に行きたくない、という気持ちになっていることがうかがわれる。このネガティブな気持ちの変化については、本研究からはその原因を探ることは困難であるが、データを性差で再分析すると一定の傾向が検出されるかもしれない、と考えられる。つまり、本学の教職希望学生の傾向から、英語免許取得者に女子学生が多く反対に社会科免許取得者に男子学生が多い傾向があり、この分析結果と何らかの

関係があることが推測されうるが、これは今後のさらなるデータの積み上げと再分析による課題としたい。

2. 社会施設全般について

社会施設に関する項目分析では、施設入所者（主に高齢者や障害者）個人に関する問題（項目 1, 3, 4）や社会施設での体験と教員免許の関連性に関する問題（項目 6, 7）などで有意差がみられなかったが、社会施設に関する問題（項目 2, 5）において有意差がみられている。これは、実際の社会施設現場を体験することによって理解が進むものであり、介護等体験としての経験値を高めるという意味においては有効であることが示されている。しかし、介護等体験の本来的なねらいである教員としての資質向上という観点から考察すると、項目 6 「施設実習の経験は教師の仕事に役立つと思いますか」、や項目 7 「教職希望者は必ず施設実習に行くべきである」で有意差がみられなかったことは、本研究のデータから判断する限り、介護等体験の社会施設体験は教職志望学生にとって教員としての資質を向上させる体験とはなり得ていないと言えよう。

次に、介護等体験全般の分析同様、英語と社会の教科別の分析結果を Table 5-1, 2 に示した。これらを見ると、英語免許取得者において、社会施設の環境面に対する理解が進みさらには高齢者への理解も進んだ様に思われるが、社会免許取得者においては有意な変化がみられない。これは、英語と社会という教科の違いが理由として考えられる様に思われる。社会施設は、特に公民分野においては現在の日本を語るときに重要なエポックとなっており、社会免許取得学生にとっては身近な問題であるが、英語免許取得学生には知識としての必然性が高くないことが考えられる。

Table 5-1 英語履修者の施設体験に関する t 検定結果

	t値	自由度	有意確率
項目1 施設に入っている人たちは可哀相だと思いますか (事前-事後)	1.475	75	0.143
項目2 施設の環境は悪いと思っていますか(事前-事後) ***	5.684	78	0.000
項目3 施設のお年寄りは孤独であると思いますか(事前-事後) **	2.198	69	0.030
項目4 施設の子どもは身寄りが少ない場合が多いと思いますか (事前-事後)	0.363	46	0.718
項目5 施設の障害者たちにはサポートが必要だと思いますか (事前-事後)	2.444	49	0.017
項目6 施設実習の経験は教師の仕事に役立つと思いますか (事前-事後)	1.175	75	0.243
項目7 教職希望者は必ず施設実習に行くべきである (事前-事後)	0.000	76	1.000
項目8 施設での実習(5日間)は長いと思いますか (事前-事後)	0.530	76	0.597

*** p<.001 **p<.005

Table 5-2 社会履修者の施設体験に関する t 検定結果

	t値	自由度	有意確率
項目1 施設に入っている人たちは可哀相だと思いますか (事前-事後)	-0.755	55	0.459
項目2 施設の環境は悪いと思っていますか(事前-事後)	1.000	55	0.329
項目3 施設のお年寄りは孤独であると思いますか(事前-事後)	-1.816	51	0.086
項目4 施設の子どもは身寄りが少ない場合が多いと思いますか (事前-事後)	0.617	34	0.549
項目5 施設の障害者たちにはサポートが必要だと思いますか (事前-事後)	0.618	36	0.547
項目6 施設実習の経験は教師の仕事に役立つと思いますか (事前-事後)	1.862	55	0.077
項目7 教職希望者は必ず施設実習に行くべきである (事前-事後)	1.253	55	0.225
項目8 施設での実習(5日間)は長いと思いますか (事前-事後)	-1.563	55	0.134

以上から、社会施設体験については、教員としての資質向上には寄与することはほとんどないが、経験値を高めることや知識を得ることといった観点では特に英語免許を取得しようとする学生には貴重な体験になっていることが示された。

3. 養護学校体験について

養護学校体験の因子分析結果では、教職を志望する学生にとって、介護等体験の養護学校体験がどれだけ意義あるものであるかを認識している「意義認識因子」を第1因子として抽出できた。第2因子の「学習効果因子」は、学生達が養護学校体験で障害のある子どもや障害そのものについてより詳しく学べることを期待していることを表しており、第3因子の「教職イメージ因子」は、養護学校教員の任務内容の理解とそのイメージを学べることを期待しているものである。各因子にみられるように、教職志望学生の多くは養護学校体験を経験する前から、養護学校体験では

養護学校の教育について、かなり積極的に教職と関連させた意識や期待感を持っていることがうかがわれる。社会施設体験の場合は、福祉のイメージが強く養護学校と比較して教職との関連性が希薄であるように思われるが、養護学校の場合は教育の現場での体験であり、教育実習ほどではないにしても直接教育現場に触れる体験であるためと考えられる。

各因子に表されている養護学校教育への意識や期待感について、養護学校体験の事前と事後を各因子ごとに比較したところ、いずれの因子でも体験後の因子得点が高得点となっており、3因子ともに有意差がみられたことから、養護学校体験は教職志望学生の事前意識以上に学ぶことが多い体験であることが示された。

介護等体験の主目標である教員資質の向上の観点から養護学校体験について考察を加えると、遠藤(2005)は介護等体験の事前事後調査から、学生の障害児及び障害児教育に対する意識がより好意的に変化することや障害児と接することで障害児教育の重要性・必然性が認識されることなど、学生の意識の変容を指摘している。これは本研究の結果とも一致しており、養護学校体験は特に障害児教育への理解という点において教員資質向上へ寄与している、と考えられる。この点について天野(2005)は、一般中学校の教員を目指している学生にとって、彼らの障害児に関する認識や理解を深めることは2007年からスタートする特別支援教育を推進する原動力となると指摘しており、養護学校体験が教員資質向上の一翼を担うものと思われる。本学の場合は社会福祉学部で養護学校教員の免許も取得できるが、卒業時に社会の免許と同時に申請するものは介護等体験を免除されるため、介護等体験を受ける学生はほとんどが養護学校について詳しい知識を持ち合わせていないと思われる。その意味でも養護学校体験に関する分析結果は、遠藤や天野の指摘と合致している。

VI. 結 語

介護等体験は、社会施設体験と養護学校体験に分けられるが、社会施設体験よりも養護学校体験において教員として学ぶものが多く、教員資質の向上に寄与することが示された。田中（2005）が指摘するように、受け入れ施設や養護学校の意識の整備は今後の課題であるが、現時点では介護等体験の養護学校体験の有用性が認められた。しかし、2日間の体験だけで障害児教育への理解が深化することは考えにくく、同じく田中のいう大学教職課程のカリキュラムに特別支援教育に関する講義を必修化することを、今後の課題として結語としたい。

本研究の一部は、第16回日本教師教育学会において発表した。また、本研究を行うにあたり、北星学園大学2006年度特別研究の補助を受けました。感謝とともに報告致します。

また2007年度より、養護学校は特別支援学校と名称変更しているが、本稿では2006年度までの養護学校表記を用いた。

文献

- 天野ちさと（2005）：介護等体験における大学生と知的障害児との関わり。日本特殊教育学会第43回大会発表論文集，pp. 345.
- 遠藤真美，是永かな子（2005）：介護等体験による教職志望学生の障害児教育に対する意識の変容。日本特殊教育学会第43回大会発表論文集，pp. 338.
- 藤本典裕（2003）：介護等体験への取り組み—東洋大学の場合。教師教育研究，vol16，pp. 51-61. 全国私学教職課程研究連絡協議会。
- 前田輪音（2004）：介護等体験実習の体験内容の検討。北海学園大学学園論集，vol120，pp. 23-38.
- 小寺慶昭（2003）：「介護等体験」実施上の問題点。教師教育研究，vol16，pp. 41-49. 全国私学教職課程研究連絡協議会。
- 田中敦士（2005）：介護等体験に対する受け入れ学校・施設側の認識。日本特殊教育学会第43回大会発表論文集，pp. 526.
- 富田新（2002）：介護等体験を教師教育にどう生かすか。教師教育研究，vol15，pp. 47-61. 全国私学教職課程研究連絡協議会。

資料 アンケート調査項目

1) 介護等体験全般に関する項目

- ①教員免許取得にあたり介護等体験は必要と思いますか
- ②介護等体験は貴重な体験になると思いますか
- ③介護等体験は疲れると思いますか
- ④介護等体験は楽しみですか
- ⑤介護等体験に行きたくないですか

とてもいいえ	いいえ	どちらでもない	はい	とてもはい

2) 施設体験に関する項目

- ①施設に入っている人たちは可哀相だと思いますか
- ②施設的环境は悪いと思っていますか
- ③施設のお年寄り孤独であると思いますか
- ④施設の子どもは身寄りがない場合が多いと思いますか
- ⑤施設の障害者たちにはサポートが必要だと思いますか
- ⑥施設体験の経験は教師の仕事に役立つと思いますか
- ⑦教職希望者は必ず施設体験に行くべきである
- ⑧施設での体験（5日間）は長いと思いますか

とてもいいえ	いいえ	どちらでもない	はい	とてもはい

3) 養護学校体験に関する項目

- ①養護学校は暗いイメージがありますか
- ②できれば養護学校には行きたくないですか
- ③養護学校の2日間は楽しく過ごせそうですか
- ④養護学校免許を取得する予定ですか
- ⑤養護学校体験が教員免許取得に役立つと思いますか
- ⑥教職希望者は必ず養護学校を体験すべきである
- ⑦養護学校体験の2日間は短かいと思いますか
- ⑧施設の5日間と養護学校の2日間を入れ替えるべきだ
- ⑨養護学校体験はもっと長い日数が望ましい
- ⑩体験で障害児の指導法について学べると思いますか
- ⑪体験で障害児の心理について学べると思いますか
- ⑫体験で障害児の教育について学べると思いますか
- ⑬体験で障害児の発達について学べると思いますか
- ⑭障害児教育は何をしているかよく分からない
- ⑮養護学校の教師は普通校に比べて楽そう
- ⑯養護学校の教師は普通校に比べて難しそう
- ⑰養護学校の教師は普通校に比べて楽しそう
- ⑱養護学校の生徒は普通校に比べて生き生きとしている
- ⑲養護学校の生徒は普通校に比べて大変そうですか

とてもいいえ	いいえ	どちらでもない	はい	とてもはい

[Abstract]

Research on Student Changes through Nursing Experience

Kiyoshi TAJITSU

Nursing experience is required for students who want to acquire a teacher's license. However, it is not clear what students learn from this nursing experience. In this research, students were given a questionnaire before and after their nursing experience, and what they learned was clarified. The results show that students had a very valuable experience of the social welfare facilities and at the school for handicapped children. Students especially learned the necessary qualified to be a teacher through the nursing experience at the school for handicapped children

Key Words: Nursing Experience , Consideration Change, Questionnaire